

「ぴよんと高く！！」2学期の保育の視点④より  
 一気持の良い季節の中、体を思い切り動かし、気持ちが良いと感じるー

庭では、毎日のように「うんどうかい」が行われています。部屋の中で遊んでいる子どもたちも、「大きい組が旗を持って歩いているよ」「今度はかけっこ始まったね」と、庭での雰囲気を感じ取ります。かけっこが始まると、自分の番が来るまで待っている子どもも、庭で他の遊びをしている子どもたちも、「がんばれー」と声援を送ります。廊下から外に向かって「〇〇ちゃん！がんばれー」と大声を届けます。遠く離れたところに居たとしても、名前を呼び「がんばれー」と言わずにはいられない気持ちになる場面が、そこここで見られます。子ども同士の関係が築かれていることを思わされます。子どもの「がんばれー」には、沢山の意味が込められていることでしょう。「私の大好きな〇〇ちゃんが走っている！」「〇〇ちゃん、最後まで走ったねえ」など、一緒に走っているような気持ちをのせた言葉だと思います。

ところで私は、日頃より「がんばって」という言葉を安易に使わないようにしています。「がんばって」は、多くの場面に使える言葉だと思います。ただ、言いたくなくなってしまった場面で、私は一呼吸ついて、「私は、今向き合っている子どもの何を見つめているのだろうか？」と考えるのです。そして、今の姿を認めるなら、もうこれ以上「がんばって」と言わなくても良いことがわかります。

10月のよく晴れた日に、年中組のみんなで庭に出て、かけっこをしました。自分の走る順番が来るのを待ちながら、どの子どもも「がんばれー」と応援の声を掛けます。私は思わず、かけっこを続けるのを少し止めて、子どもたちに言いました。「私ね、がんばれ！の他のことばも探しているのよ。たとえば、腕ふってー！とかね」と、話しました。それからかけっこを再開しやっぱり「がんばれー！〇〇～！！」という子どもたちの声に、私は「これが子どもの気持ちなのだろうな」と思っていました。

ある午後の日。午前中の「うんどうかい」の続きが始まりました。玉入れが始まると、部屋の中で違う遊びをしていたAちゃんとBちゃんが廊下にでて来ました。近くにあったオレンジと紫のクラスの色旗を片手に持って振りながら、「がんばれー！すみれ」「がんばれー！たんぽぽ」と声を上げています。すると、近くにいたCちゃんが「もっと高く飛んで投げてー！！」と言います。すぐさまそれを聞いたBちゃんが「ぴよんと高く飛んで！！」と続きます。Aちゃんも「ぴよんと高くね」と言います。その後、「ぴよんと飛んで！」「ぴよんと

飛んで！」と言いながら、自分たちもその場でぴよんぴよんと飛んで、声を掛け続けていました。私は「子どもたちからこんな言葉も出てきた」と思っていました。引き続き、その時のその子どもに合った共感や励ましの言葉を考えていきたいと思う秋の日です。

「お弁当のあとに続きする」	2学期の保育の視点③より
—友だちと関わる中で、共に過ごすことの楽しさを知る。	
自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを聞く経験をする—	

朝登園してきたDちゃんが身支度を済ませると、木のベンチを運び始めました。「何に使うの？」と言うと、「小さい組の子どもたちが座れるようにするの」と答えます。私は、『何かが始まりそうだわ』と思っていました。Dちゃんは、Eちゃん、Fちゃんと一緒に部屋の片隅にベンチを並べ、椅子も3列に並べています。それから、Dちゃんは新聞紙と新聞紙をのりでつなぎ合わせて、広いシートを作っています。Eちゃんは、スカートを重ねて履いています。Fちゃんは、自分の考えるちょうど良い大きさの空き箱を探しています。3人ともそれぞれが、違うものを準備しています。それから3人はそろって部屋を出て行き、しばらくすると年少組の子どもたちをぞろぞろと10人近く連れて帰って来ました。3人は、並べてある椅子に年少組の子どもたちを座らせて、「はじまります」と声を掛けます。私は少し離れたところから様子を見ていたのですが、いつまでたっても何も始まりません。3人は年少組の子どもたちを前に、もじもじとしながら、「Dちゃんが先でしょ？」「Eちゃんが踊ればいいじゃない？」などと言っています。しばらく待ってもそのままなので、私は「3人は、何がしたかったの？」と聞きました。どうやら、床に敷いた新聞紙のシートが舞台上、その上でダンスをするのを年少組の子どもたちに見て欲しかったようです。「もう少し、どうやってやるのか決めた方が良さそうね。準備ができたらお客さんを呼ぶことにしましょう」と私が言うと、3人は「そうかー」「そうする」と言いました。そして年少組の子どもたちには一度部屋に帰ってもらうことにしました。

さて、3人は「お客さんを早く呼びたい！」「踊りを見せたい」という気持ちはあったのですが、どうやって誰が何をするかは決めていなかったようです。私は「どうしたら始められるかしらね？」と聞きました。3人は集まって、「3人一緒に初めは踊るのはどう？」「えー！私、最初は見てる」「私は歌いながらしたい」「でも何の歌？」「小さい組が知っている歌がいいよ」と話していますが、中々決まりません。

そうやって話しているうちに、片付けの時間になってしまいました。Dちゃんが「あーん。小さい組呼べなかったー」と言うと、Eちゃんが「お弁当の後、またしようよ。それでも出来なかったら、また明日できるよ」と応えます。

この3人のように、年中組では年長組の姿をモデルにしてお店屋さんをしてお客さん呼びたいと思う子どもたちがいます。ところが今はまだ、自分たちの考えていることをうまく整理して、こつこつと準備をすることは難しいです。途中で、一端休むことや立ち消えになってしまうこともあります。それでいて、ふとした時に「そうだ、あの続きをしよう」と始めます。やりたい気持ちを受け止めながら、どうやったら実現していけるかを一緒に考え、ゆっくりその手順を楽しみ支えています。

(田中 百合)